

2019年度 西唐津小学校 教育研究計画

【校内研究】

① 研究主題

「自分の考えを素直に表現し、学びを通して自己の考えを深め広げるための道徳科の研究」

～友だちとの関わり合いを通して～

② 主題設定の理由

我が国の子どもたちを取り巻く社会環境はめまぐるしく変化してきている。世界でも例を見ない少子高齢化、人口減少、市場経済の縮小等が進行し、社会全体に閉塞感、不安感が広がりつつあり、それらが学校教育にもさまざまな影響を及ぼしてきている。

家庭や地域社会の教育力の低下をはじめ、自制心や規範意識(モラル)の低下、基本的生活習慣の未確立やコミュニケーション能力の未熟さなどにより、自己中心的で他人をかえりみないような風潮が芽生え、そのことがいじめなどの問題行動へとつながっているのではないかと考えられている。このことについて、学習指導要領では、こうした現実の困難な問題に主体的に対応することのできる実効性のある力を育成していく上で、道徳教育も大きな役割を果たすことが述べられている。

このような状況をふまえ、「特別の教科 道徳」(道徳科)が平成30年から全面実施となり、従来の「読み物道徳」から「答えが一つではない課題に子供たちが道徳的に向き合い、考え、議論する」道徳教育への転換が図られている。

本校では、24・25年度の2年間、「思いやりの心を持ち、生き生きと活動する児童の育成」をテーマに、道徳と各教科における体験活動を関連させた指導に取り組んだ。道徳授業の中では、一人一人が自分の考えを持ち、それをまず小グループの中で発表し、そこで認められ自信をもち、全体の場での発表につなぐという形態をとった。各教師が教材選定や提示の仕方を工夫しながら、思いやりや感謝の気持ちを育むことをめざし、情意面に働きかけた研究であった。普段自信がなく発表できない児童も意欲的に発表する姿が見られた。

一方で、学力の落ち込みは深刻な状況が続き、学力向上は喫緊の課題と受けとめた。本校は生活面や家庭環境に問題を抱え、配慮を要する児童が多い。朝の時間、全員が揃わないクラスもあり、担任、級外で連携しながら、家庭連絡をとっている。学習に取り組む以前の問題で、担任が苦慮しているのは事実であり、学力の個人差が大きい。授業の進め方の工夫をし、学力の底上げをすることで、生活面の向上に働きかけたいという気持ちで、指導する側は丸丸となって取り組んでいる現状である。特に、全国学力学習状況調査(6年)、県学習状況調査(5年)やCRT標準学力検査(1～6年)における国語科の書く領域の落ち込みは際立って大きかった。この実態をふまえ、26年度から27年度にかけては、唐津市学力向上指定校として、市が提唱している「唐津市学力向上アクションプラン」にのっとり授業改善をしながら、書く活動を重視した研究を推し進めた。唐津市の学力向上アクションプランにのっとり授業の流れは児童にも浸透し、一時間の見通しは持てるようになった。また、各教科において、一時間の流れが分かるワークシートを活用することで、どのように自分の考えを書けばよいか理解できる児童も増えた。成果は無回答率の減少など、数値にも少しずつ表れは始めている。反面、自分の考えを書くことができず、友だちの考えに頼っている児童もまだ見られ、課題としては、グループ活動において、自己の考えを表現することが負担となり、勉強に対する意欲を失っている低学力児童への対応があげられ、支持的風土の醸成や自己肯定感を高めることが求められている。そこで、本年度は授業における「唐津市学力向上アクションプラン」の流れを継承しつつ、教科

化2年目である道徳科の成果や課題を職員間で共有することが必要だと考えた。児童が自分の考えを素直に表現し、自己の考えを深め広げるための効果的な取り組みを全職員で作りに上げていきたいと考え、本主題を設定した。

③ 研究の目標

自分の考えを素直に表現し、学びを通して自己の考えを深め広げる児童を育成するために、友だちとの関わり合いに重点をおいた道徳科の学習について研究する。

④ 研究の仮説

- (1) 研究に対する組織体制を整備し、全職員がそれぞれの役割を理解し、実践に取り組んでいけば、子どもたちの豊かな心を育むことにつながるであろう。
- (2) 道徳科授業において、発問や資料提示、話し合い活動の工夫などの実践を行うことで、子どもたちが道徳科を大切なものと感じることができるであろう。
- (3) 友だちとの関わり合いを通して、お互いの考えを認め合うことで、よりよく生きるための豊かな人間性をもった児童をはぐくむことができるであろう。

⑤ 研究の視点

(1) 視点1：課題設定の工夫

- ① 道徳的価値について、子どもの多面的・多角的な考えを引き出す課題設定（学習課題、発問、めあて）の工夫
- ② 学習活動の見通しがもて、考え・議論する場が設定してある問題解決的な学習展開
- ③ 子ども自身の考えや経験を引き出しやすい資料提示の工夫

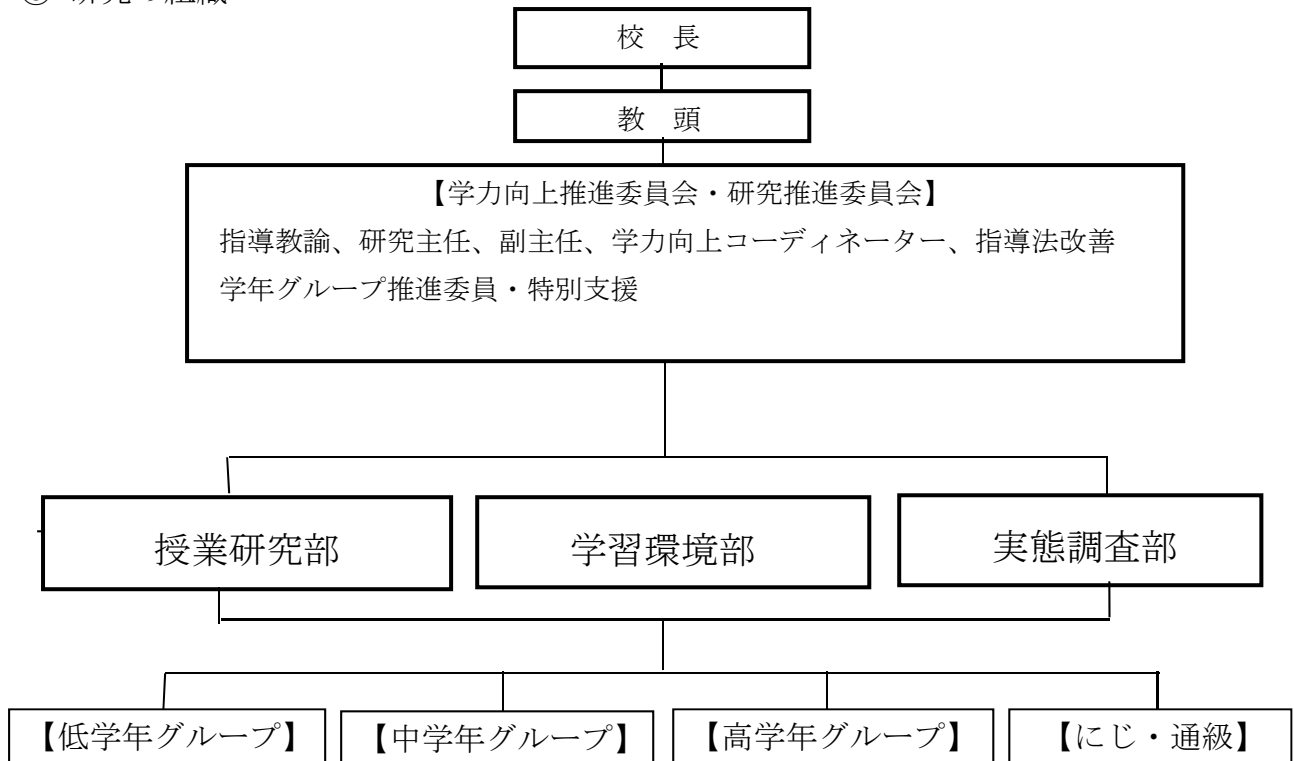
(2) 視点2：話し合い活動の工夫

- ① 学習状況や活動目的に応じた学習形態の工夫
- ② すべての子どもが道徳的価値を理解できるような可視化

(3) 視点3：振り返りの工夫

- ① 変容が可視化できる振り返りの工夫
- ② 自分の生き方や生活を振り返ることができるワークシートの工夫や道徳ノートの活用
- ③ すべての教育活動において、認め、励ます評価の工夫

⑥ 研究の組織



◎分担内容

(1) 校内研究推進委員会

- ・校内研究全体の統括
- ・校内研究の確認と推進
- ・公開授業および研究授業の計画・提案

(2) 校内研究各部会

① 授業研究部

- ・ワークシート、教材（集約、管理）
- ・学力向上アクションプランチェックシート（提案、集計）
- ・道徳教育全体計画、指導計画（確認、修正）

② 学習環境部

- ・家庭学習のしかた（児童、保護者用資料作成）
- ・教科における系統的な指導について（資料作成、提案）
- ・諸掲示物の作成、掲示

③ 実態調査部

- ・チャレンジタイム（プリントの準備、提案）
- ・学習状況調査分析・対策（分析、保護者用資料作成、対策）
- ・基礎学力テスト（練習問題、テストの準備）
- ・QUテスト（提案、実施、分析）
- ・アセスメントシート（提案、実施、分析）

⑦ 研究構想図

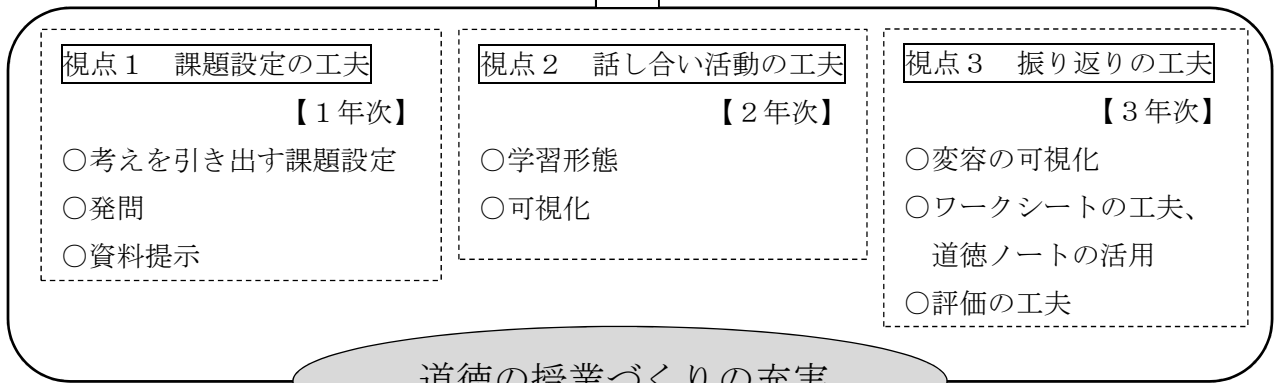
学校教育目標 「学ぶ力とかかわる力を持ち、たくましく生きる児童の育成」

重点目標 知： 学力向上への積極的な取り組み
 徳： 思いやりの心、「人・もの・こと」と関わる心の育成
 体： 安全・安心な学校づくり

研究主題 「自分の考えを素直に表現し、学びを通して自己の考えを広げるための道徳科の研究」
 ～友だちとの関わり合いを通して～

めざす児童

1年…いのちきらきら、ありがとうがいっぱい言える子ども
 2年…人を思いやる心を持ち、自分を大切にしようとする子ども
 3年…いのちを大切にし、相手のことを思いやり、親切にできる子ども
 4年…相手に思いやりや感謝の気持ちで接し、進んで活動しようとする子ども
 5年…人との関わりの中で思いやりや感謝の気持ちを持ち、社会奉仕しようとする子ども
 6年…いろいろな人に支えられている自分を知り、前向きに生きようとする子ども



道徳の授業づくりの充実

学習基盤

- ☆学習規律の徹底 (きんぼしのきまり参考)
- ☆学習習慣づくり (ノート指導) (ワークシートの活用)
- ☆チャレンジタイム (週2回 国語・算数)
- ☆唐津市学力向上アクションプランに基づいた授業スタイル

実態調査

- ☆基礎学力テスト
- ☆学習状況調査
- ☆CRT 標準学力検査
- ☆QU テスト
- ☆放課後補充指導
- ☆アセスメントシート

チーム西唐津の推進

- ☆家庭・地域・関係機関との連携
- ☆生活規律の徹底 (よいこのきまり参考)
- ☆読み・書き・計算を中心に、学年・クラス間の統一を図った課題
- ☆保小中連携の推進
- ☆ふれあい道徳

⑧ 年間計画

月 日	曜	おもな内容		
4月 3日	水		研究推進委員会	
4月16日	火		研究推進委員会	
4月17日	水	職員会議		提案
5月22日	水	校内研究		
6月26日	水	校内研究		※授業研究会 1
8月 日		校内研究	※教科については未定（講師招聘の予定）	
8月 日		校内研究	※外国語活動についての研修会（講師招聘の予定）	
9月25日	水	校内研究		
10月 日	水	校内研究		※授業研究会 2
11月27日	水	校内研究		※授業研究会 3
1月29日	水	校内研究		まとめ
2月 日	水			次年度計画
3月 4日	水	校内研究		次年度の提案